

石井十次 顕彰会だより

vol.28



公益財団法人 石井十次顕彰会



公益財団法人 石井十次顕彰会



▲テレビ番組で再会した井深八重さんと。
▶トムソンさんご夫妻と阿部さんご夫妻。
▶受賞のよろこびを語る阿部さん。



▲選考経過について述べる石井十次賞
選考委員会の潮谷義子委員長

▶神奈川県横須賀市にある社会館



日本の社会福祉の先駆者、 阿部志郎氏に石井十次賞

人生を決めたふたりの人物

公益財団法人石井十次顕彰会は第二十八回「石井十次賞」の受賞者を、社会福祉法人横須賀基督教会社会館の会長、阿部志郎さんに決定し、平成三十一年四月、たかしんホール（高鍋町中央公民館）で贈呈式をおこないました。

阿部さんは大正十五年、東京生まれ。第八代青山学院長だった父のもと、十三歳の時に受洗。長じて東京商科大学（現・橋科大学）に進学し、在学中の昭和二十三年、ハンセン病患者を献身的に世話していた看護師・井深八重さんの姿に深く感銘を受け、社会福祉の道に入る決意をします。

翌年、同大を卒業し明治学院に奉職。昭和二十五年にはアメリカ・ニューヨーク州のユニオン神学大学で倫理学を学ぶため留学しますが、この時代にエベレット・トムソンさんと出会います。

トムソンさんは終戦翌年の昭和二十二年、横須賀基督教会館を争や紛争による世界的な孤児問題に取り組むべく、「国連世界孤児の日」制定に中心的な存在となつて活動しています。

石井十次顕彰会は、長期にわたりにこうした児童の健全育成に先導的に携わってきた実績を高く評価し、石井十次賞贈呈を決定しました。

阿部さんは「ソーシャルワーカー」として石井十次は理想像。私の活動のなかでもいろいろな面で影響を受けています」と話し、「特に孤児院経営が岡山で危機に陥り、ここ宮崎県でやり直した覚悟は素晴らしい。制度や政策にとらわれることなく福祉の精神があれば必ず道は開けるということを教えてくださいました。また、妻の祖父が十次のもとで奉仕活動していたという不思議な縁もあります。こんな名誉ある賞をいただき恐縮していますが、十次の精神を次世代に伝えていくべく、尽力したいと思っています」とよろこびを語っています。

開設。初代館長として児童のみならず高齢者も視野に入れた社会福祉に尽力しました。そんな人物との出会いは、阿部さんの人生を決定づけ、昭和三十三年、氏に請われて二代目館長に就任することになります。

「国連世界孤児の日」 制定に向けての活動も

以後、「肢体不自由児こそ情緒的・機能的に特別な訓練が必要である」として、肢体不自由児保育にわが国でも最初期に取り組みと共に公立施設設立に奔走し開所を実現させたほか、昭和三十四年に横須賀市で初めて乳児保育を開始。同三十八年には学童保育に取り組みました。

また、老人への給食サービスを早期に始めたほか、後年には認知症被害者のデイサービスをはじめ、多彩な機能を持つ福祉複合施設を設置。児童と高齢者や障害者との交流も深め、その一方では戦

石井十次賞

阿部志郎 様

あなたは永年にわたり 社会福祉法人横須賀基督教会館を拠点に 地域のニーズに応じた先駆的な事業を実施され 日本の福祉の開拓者として実践と研究の両面にわたって 偉大な業績を残してこられました

また世界中の人々が孤児問題に関心をもって取り組むことを目的とする「国連世界孤児の日」の制定活動の中心として携わってこられました

弱い立場の人々に寄り添うこれらの業績は孤児救済に生涯を捧げた児童福祉事業の先駆者 石井十次先生の理念に沿った偉業でありここに心から敬意を表し 第二十八回石井十次賞を贈り その功績を称えます

平成三十一年四月十日
公益財団法人 石井十次顕彰会
理事長 萱嶋 稔

▶表彰状全文

意見発表

石井十次先生を知って

高鍋東小学校 5年 松浦百花



私は昨年1年間「明倫塾」に入
って高鍋町の歴史や偉人について
学習してきました。そこで石井十
次先生について学ぶことができました。
十次先生は、まだ「社会福
祉」という言葉すらなかった時代
に、生活に困った子ども達のため
に一生をささげた方です。

十次先生は、最初は医者を目指
していたそうです。でも、その医
者という夢よりも、生活に困った
子ども達のために一生をささげる
とちがったのです。この決断は大
変だったと思いますし、相当悩ん
だことだと思います。

私は、十次先生がなぜこんなに
大変な覚悟ができたのか考えてみ
ました。十次先生には三つの強さ
があると思いました。1つ目は、
「決断力」です。十次先生は何も
かもやろうとするのではなくて、
自分の体は1つしかないのだから
と1つにしぼってやりとげようと
しました。その一つのことをやり
とげようという「決断力」はすご
いと思います。

2つ目は、「思いやる心」で
す。十次先生は生活に困っている
子ども達に対して常に優しさをも
って接していました。人を思いや
る心がないとできないことだと思
います。

3つ目は「行動する力」です。
十次先生は決めたことに向かって
すぐに取りかかりました。この力
もすごいと思います。

この3つの力で十次先生は日本
で初めて「孤児院」をつくり、約
1200名ほどの子ども達と一緒
に生活をしました。東小児童数の
約2倍をこえる数の子ども達とで
す。

私は、週に1回クラス全員で唱
えている新明倫の教えの中の一つ
を思い出しました。「年上をうや
まい。同年と親しみ、年下をいつ
くしみませう。」この教えが日本で
最初の孤児院をつくり長く続けら
れた心なのだと思います。

私は、4年生の3学期に2分の
1成人式をするために夢の作文を
書きました。そのときに自分の夢

第4回「なわのおび賞」を贈呈 第37回石井十次生誕記念式典で



「石井十次賞贈呈式」に続き、
第37回を迎えた「石井十次生誕
記念式典」をたかしんホールで開
催しました。

式典では、高鍋西小学校の松井
優芽(ゆめ)さん、高鍋東中学校の
徳島彩さん、高鍋農業高等学校の
田爪江太郎さんが石井十次に向
かって献花。続いて4回目となっ
た「石井十次なわのおび賞」の贈
呈をおこない、高鍋東小学校の湯
浅康平さん、高鍋西小学校の馬渡
志桜(しおん)さんら、町内の小中
高校生6人を表彰しました。

そして、高鍋東小学校の松浦百
花さん、高鍋西中学校の野崎健人
(たける)さん、高鍋高等学校の福
島萌花(ももか)さんが石井十次
への思いをつづった作文を発表。高
鍋東小学校をはじめ、木城小学
校、茶臼原小学校のみなさんに
「石井十次物語」を贈呈しました。

最後に、「ひとつぎ会」のみなさ
んが「石井十次踊り」を披露。会場
中から温かい拍手が贈られ、式典
は無事終了しました。

共生できる社会を目指して

高鍋高等学校 3年 福島萌花



みなさんは、「最初の孤児」の話は知っていますか。「最初の孤児」の話とは、石井十次先生がある2人の子ともと出会うことから始まります。母親とお遍路をしていて、何日も飲まず食わず腹が減っているその子らに、石井十次先生がにぎり飯をあげました。2人の母親がこのままでは、親子共に飢え死にしようと思いい、「1人の子を預かって頂けないでしょうか」と頼みました。石井十次先生は、「すべては神の御心のままに。この子を引き受けましょう。」と快く預かりました。この兄妹の一人がやがて岡山孤児院へと発展する施設の一番目の入所者となりました。それが、石井十次先生の孤児救済の第一歩と言われています。

石井十次先生は生涯を孤児救済に捧げる決断をされました。医師を志していた十次先生にとってこの決断は、とても難しかったと思います。自分の気持ちだけでなく、家族の理解を得ることも大事です。

みなさんは障がい者に対してどのような考えを持っていますか。大半の人は「かわいそう」「かわらないでおこう」など私たち健常者は障がい者を知らず知らずのうちに分けて考えているのではないかと思います。しかし、そのような考え方が健常者と障がい者の間に壁をつくり、ときにそれが差別や偏見となって障がい者にとって暮らしにくい社会になっているのです。

そこ今回、福祉という点で障がい視点を置き、私がい実際に行ったボランティアでの体験を通して感じたことを、健常者である私たちがなすべき行動について発表したいと思います。そして一人でも多くの人に障がいについて知ってもらえることを願っています。私は夏休みに宮崎病院に併設されている障がい者施設「のぞみ病棟」でボランティア活動を行いました。きっかけは、中学生の頃に福祉体験として「のぞみ病棟」に行き、健常者は障がい者に対して

石井十次先生について

高鍋西中学校 3年 野崎健人



た。またどんどん増えていった子どもを預り育てるのはとても大変だったと思います。子どもが病気にかり亡くなった時など大きく悲しんだと思います。それでも孤児救済し続けられたのは石井十次先生の強い気持ちがあったからこそだと思えます。また、たくさん子どもを預かることができたのは、石井十次先生がいろいろな人に信頼されていたからだと思います。

僕は、小学5年生の時に劇で石井十次先生役をしました。演じていく上で感じたことは、石井十次先生は、お母さんが織ってくれた自分の大切な帯を縄の帯しかなない困っている友人に譲ってあげることのできるとても優しい人であるということです。また、自分のために帯を織ってくれたお母さんを気遣うこともできます。でもそんな石井十次先生の行動をお母さんは褒めてくださいました。石井十次先生が子どもの頃から優しく、ボランティア活動を始めているの

ある種の差別・偏見を持っていると感じたからです。そして、それらをなくそうと考えると、健常者と障がい者の間に壁をつくらないと同じ時に「障がい」に対してもっと理解のある国づくりを行うこと。そのために私たち一人一人が立役者となる必要があると思います。もう一度、障がいについて詳しく知るために、また、私の考えに確証をもつためにボランティアに参加しました。

参加するにあたって、今後解決すべき課題とも言える、障がい者を対象としたボランティア活動を行っている団体が少ないという現状が浮き彫りになりました。実際、私もJRC部員とともに活動に参加しようと思った時、障がい者を対象としたボランティアが少なく、正直とまどいました。そのため私たちは自分たちが障がい者施設を調べ、ボランティアを行っている病院を見つけ、部員たちと話し合っって日程や活動内容を決め、病院に直接問い合わせました。これらを経て、

私たちはボランティア活動に参加することができました。ここで、ボランティアの活動内容に入る前に、障がい者施設「のぞみ病棟」について少し紹介させていただきます。「のぞみ病棟」では重度の肢体不自由と重度の知的障がいとが重複した重度心身障がい者がそれぞれの持てる力を發揮して生き生きとすごしていくために、療育活動を行っています。今回参加させていただいたボランティアでの活動内容としては大きく分けて通所施設に通っている方々との交流、季節行事の補助、食事介助の見学の三つを行いました。通所施設に通っている方々との交流では、車いすを押ししたり、手をにぎったりと普段できない体験をさせていただきました。保育士の方によるとボランティアで高校生や中学生が来ることはほとんどなく、入所されている方々もかわる機会があまりないらしく、入所者の嬉しそうな笑顔が印象的で今でも忘れられません。(次頁へ)

は、お母さん、お父さんのおかげでもあると思います。僕は、石井十次先生のような人になりたいと思います。今僕にできることは、トイレのスリッパを並べたり、ゴミを拾ったりするなどの小さいことの積み重ねですが、周りの人が気付かないようなことでも継続していきたいです。

最後に、石井十次先生が残した言葉には、「信・愛・和」があります。「信は、お互いに信じ合えること。愛は、お互いに愛し合うこと。和は、仲良く支え合って生きること。」です。この3つの言葉を忘れずに生活していきたいと思っています。

私たちはボランティア活動に参加することができました。

ここで、ボランティアの活動内容に入る前に、障がい者施設「のぞみ病棟」について少し紹介させていただきます。「のぞみ病棟」では重度の肢体不自由と重度の知的障がいとが重複した重度心身障がい者がそれぞれの持てる力を發揮して生き生きとすごしていくために、療育活動を行っています。今回参加させていただいたボランティアでの活動内容としては大きく分けて通所施設に通っている方々との交流、季節行事の補助、食事介助の見学の三つを行いました。通所施設に通っている方々との交流では、車いすを押ししたり、手をにぎったりと普段できない体験をさせていただきました。保育士の方によるとボランティアで高校生や中学生が来ることはほとんどなく、入所されている方々もかわる機会があまりないらしく、入所者の嬉しそうな笑顔が印象的で今でも忘れられません。(次頁へ)

は、お母さん、お父さんのおかげでもあると思います。僕は、石井十次先生のような人になりたいと思います。今僕にできることは、トイレのスリッパを並べたり、ゴミを拾ったりするなどの小さいことの積み重ねですが、周りの人が気付かないようなことでも継続していきたいです。

第4回 なわのおび賞 受賞者紹介

高鍋東小学校 6年 湯浅康平さん (ゆあさ こうへい)

〈受賞理由〉

学習では積極的に自分の考えを発言。教室の消しゴムくずを集めたり、机の配置整理をしたり学習環境を整えることに加え、廊下や教室のゴミは拾ってゴミ箱に捨てるなど模範となる行動ができています。運動会や修学旅行ではリーダーシップを発揮。高齢者や特別支援学級の子に温かく対応し、人間性も豊かだ。



高鍋西小学校 6年 馬渡志桜さん (まわたり しおん)

〈受賞理由〉

学校生活全般に常に全力で取り組んでいる。また、周囲の友だちに優しく接することができており、リーダーシップも発揮している。放課後や休日には所属する地域の太鼓チームで練習に励み、キャプテンとして集団をまとめる一方、素晴らしい演奏を披露。こうした学校内外での意欲的活動は本賞にふさわしい。



高鍋東中学高 3年 西吉菜汰さん (にしよし かんた)

〈受賞理由〉

何事にもやる気に満ち前向きに取り組んでおり、生徒会長として活躍。小学校から続けている陸上競技では素晴らしい成績を残し宮崎県ワールドアスリート発掘・育成事業ではまとめ役に抜擢された。また、東児湯郡英語弁論・暗唱大会で最優秀賞、NHK 全国学校音楽コンクール宮崎県予選では金賞を受賞している。



高鍋西中学校 3年 黒木翔太さん (くろぎ しょうた)

〈受賞理由〉

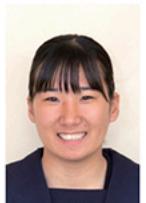
学年のリーダー的存在で、明るい性格と誠実さで周囲からの信頼もあつく、学習に対する意欲的な姿勢は多くの友人に刺激を与えている。部活動では野球部の主将を務め県大会に秋・夏ともに出場。県選抜チームの主将も務め、チームを全国大会優勝に導いた。日本代表にも選ばれ、台湾大会に出場している。



高鍋高等学校 2年 平田愛美さん (ひらた まなみ)

〈受賞理由〉

本校ラグビー部初の女子部員で、男子と同じ練習に励んだ結果、西日本代表選手に選出。女子花園大会ではフル出場し西軍勝利に貢献した。学習にも意欲的でクラストップレベルの成績を収めている。地域活動にも取り組み、地域清掃や「高鍋城灯籠祭り」にボランティアに参加。他の生徒の模範になっている。



高鍋農業高等学校 3年 香川百萌子さん (かがわ ももこ)

〈受賞理由〉

学校を活性化させたいとの意欲的に生徒会長を務め、学校内外の行事で活動。農業クラブ活動で日本農業クラブ全国大会の意見発表部門で優秀賞を受賞、予選の宮崎大会で宮崎県教育長賞を受賞した。研究活動ではホテル四季亭と連携しチーズパンを製造・販売。毎日新聞の全国農業高等学校協会賞を受賞している。

また、私自身もその笑顔に元気をもらいました。その他の季節行事の補助や食事介助の見学でも職員の方々の気づかいや入所者の手が思いどおりに動かないながらも一生懸命自分で食べようとする姿に感銘を受けました。これらを通して私は多くのことを学びました。その中でも強く感じたのは健常者も障がい者もみな同じという事です。お互い、命の価値、そして心は何ひとつ変わりません。歩くこと、食事をすること、言葉を交わすこと、物事を考えることなど身体的または知的障がいのある人にとって困難な事を、健常者である私たちが日常生活をする上であたりまえのように行っているために、健常者と障がい者との誤解が生じ、予断と偏見が生まれるのだと思います。ですが、今回それらは決してあたりまえではないと確認をもちました。ですから私たちは障がい者にとって暮らしやすい社会になるよう全力でサポートすべきなのです。高校生でもできることはたくさんあるはず。私は「のぞみ病棟」でのボランティアを通して障がい者と健常者との間にへだたりをつくってはいけないと強く実感しました。「信じて疑うことなかれ。祈りて倦むことなかれ。為せよ、屈するなかれ。時重なればその事必ず成らん」これは児童福祉の父と称された石井十次先生の言葉です。私は石井十次先生の行動力、そして困っている人に手を差し伸べることのできる優しさに強いあこがれを抱いています。これからもこの精神を基に、活動を続けていきたいと思えます。

石井十次賞二十回記念誌

「愛と慈しみの心をいつまでも」
増刷ができました。

石井十次賞の受賞者らを紹介した小冊子の第一回から二十回までを一冊にまとめた記念誌「愛と慈しみの心をいつまでも」の増刷ができました。当顕彰会までお問い合わせください。



ご報告

このたび、みなさま方より多額のご寄付をいただきました。ここに厚く御礼申し上げますとともに、謹んでご芳名を記させていただきます。(平成31年1月1日～令和元年12月31日)

篤志寄附

木城町 株式会社 尾鈴山蒸溜所様	延岡市 株式会社 興電舎様
高鍋町 有限会社 事務機のフクモト様	都城市 石井十次の会 都城支部様
宮崎市 株式会社 大興不動産様	
日南市 社会福祉法人 四季の森こども園様	
高鍋町 富田 美智子様	
高鍋町 株式会社 高鍋衛生公社様	
高鍋町 株式会社増田工務店様	

忌明寄附

高鍋町 黒岩 英子様
高鍋町 尾崎 敏弘様

編集後記

「石井十次顕彰会だより」第28号をお届けいたします。今回の石井十次賞は、長年にわたり児童福祉をのみならず、障がい者や高齢者福祉にも早期から取り組んでこられた阿部志郎氏に贈呈させていただきました。

阿部さんは大正十五年、東京の生まれ。会長を務めておられる横須賀基督教社会館にお訪ねすると、年齢をまったく感じさせない嬰鑠（かくしゃく）とした姿に、大変失礼とは思いつつも驚かされました。石井十次賞贈呈式での力強く熱い気持の籠もったご挨拶が、今も深く印象に残っています。

さて、貸借対照表公告義務化に伴い、平成二十七年から同三十一年度の当顕彰会貸借対照表をホームページ上で公告しておりますのでお知らせします。

最後になりましたが、みなさま方のますますのご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

発行日 2020年2月20日
発行元 公益財団法人 石井十次顕彰会

〒884-0006
児湯郡高鍋町大字上江8-1-3 番地
☎099883-2231-4312

石井十次顕彰のつどい

十次の出発点を伝える劇 「最初の孤児」に大きな拍手

高鍋西小学校児童 合奏や研究発表も

第29回を数える「石井十次顕彰のつどい」を昨年11月9日、たかしんホール（高鍋町中央公民館ホール）でおこないました。

石井十次を歌う会による美しいコーラスで幕が上がると、高鍋西小学校児童が「十次先生の想いを音楽にのせて」と題

し、合唱や合奏を披露。スライドを使って石井十次の功績も紹介しました。

毎年、演し物が替わる児童劇は、十次が児童福祉への道に進んだ出発点といえるエピソードを舞台化した「最初の孤児」を同小学校の6年生が熟演。客席から盛んに拍手が送られていました。

